



報道発表資料の配付日時 1月14日(木) 15時00分

発表項目 (行事名)	2020年度北方領土中学生作文コンテストの実施結果について																																							
概要	<p>2020年度北方領土中学生作文コンテストの実施結果を発表します。</p> <p>1 募集期間 令和2年(2020年)6月12日(金)から10月30日(金)まで</p> <p>2 応募作品数 117作品(18校)</p> <p>3 選考会概要 開催年月日 令和2年12月17日(木) 選考委員 作文審査の専門家、北方領土関係団体など5名</p> <p>4 選考結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>賞</th> <th>学校</th> <th>学年</th> <th>氏名</th> <th>作品名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最優秀賞</td> <td>立命館慶祥中学校</td> <td>3</td> <td>白間 あかね</td> <td>想像することから一歩は始まる</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">優秀賞</td> <td>市立札幌開成中等教育学校</td> <td>3</td> <td>棟朝 遥香</td> <td>若者がつなぐ北方領土の未来</td> </tr> <tr> <td>中標津町立計根別学園</td> <td>9</td> <td>向井 美生</td> <td>私たちが受け継ぐ北方領土</td> </tr> <tr> <td>立命館慶祥中学校</td> <td>1</td> <td>茶木 もね</td> <td>今、私たちに求められること</td> </tr> <tr> <td></td> <td>札幌市立厚別北中学校</td> <td>1</td> <td>相馬 涼花</td> <td>大切な故郷</td> </tr> <tr> <td>佳作</td> <td>5名</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>奨励賞</td> <td>8名</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>5 入賞作品の活用 入賞作品は、若い世代を中心に多くの方に読んでいただけるよう、道のホームページへの掲載や、文集を作成し全道の中学校に配付するなど幅広く紹介します。 なお、入賞作品は、当本部HPに掲載します。 (URL: http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/hrt/sakubun.htm)</p>		賞	学校	学年	氏名	作品名	最優秀賞	立命館慶祥中学校	3	白間 あかね	想像することから一歩は始まる	優秀賞	市立札幌開成中等教育学校	3	棟朝 遥香	若者がつなぐ北方領土の未来	中標津町立計根別学園	9	向井 美生	私たちが受け継ぐ北方領土	立命館慶祥中学校	1	茶木 もね	今、私たちに求められること		札幌市立厚別北中学校	1	相馬 涼花	大切な故郷	佳作	5名				奨励賞	8名			
賞	学校	学年	氏名	作品名																																				
最優秀賞	立命館慶祥中学校	3	白間 あかね	想像することから一歩は始まる																																				
優秀賞	市立札幌開成中等教育学校	3	棟朝 遥香	若者がつなぐ北方領土の未来																																				
	中標津町立計根別学園	9	向井 美生	私たちが受け継ぐ北方領土																																				
	立命館慶祥中学校	1	茶木 もね	今、私たちに求められること																																				
	札幌市立厚別北中学校	1	相馬 涼花	大切な故郷																																				
佳作	5名																																							
奨励賞	8名																																							
参考 ※発表のポイントやねらい、経緯等	<p>【添付資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度北方領土中学生作文コンテスト入賞者一覧 ・最優秀作品本文 																																							
他のクラブとの関係	資料配付 同時レク	根室振興局記者クラブ																																						
担当 (連絡先)	<p>総務部北方領土対策本部北方領土対策課啓発係(担当: 田中、中田)</p> <p>TEL ダイヤルイン 011-204-5069 内線 22-768</p>																																							

2020年度北方領土中学生作文コンテスト 入賞者一覧

賞	市町村名	学 校 名	学年	氏 名	題 名
最優秀賞	江別市	立命館慶祥中学校	3	白 ^{ハクマ} 間 あかね	想像することから一歩は始まる
優秀賞	札幌市	市立札幌開成中等教育学校	3	棟 ^{ムネモ} 朝 ^{ハルカ} 遥 香	若者がつなぐ北方領土の未来
優秀賞	中標津町	中標津町立計根別学園	9	向 ^{ムカイ} 井 美 ^ミ 生	私たちが受け継ぐ北方領土
優秀賞	江別市	立命館慶祥中学校	1	茶 ^{チャキ} 木 もね	今、私たちに求められること
優秀賞	札幌市	札幌市立厚別北中学校	1	相 ^{ソウマ} 馬 涼 ^{スズカ} 花	大切な故郷
佳作	札幌市	札幌聖心女子学院中学校	1	都 ^{ツツク} 筑 ^ナ 暖 和	「ジョバンニの島」から学ぶ
佳作	根室市	根室市立齒舞学園	7	中 ^{ナカムラ} 村 ^{シンスケ} 竣 介	北方領土問題を解決するには
佳作	七飯町	七飯町立七飯中学校	2	大 ^{オオシズメ} 清水 愛 ^{アイ} 夏	返還への道のりは遠く
佳作	七飯町	七飯町立七飯中学校	2	稲 ^{イナムラ} 村 有 ^{アヲ} 虹	豊かな故郷
佳作	網走市	網走市立呼人中学校	1	堀 ^{ホリウチ} 内 あず	北方領土へ一歩ずつ…
奨励賞	網走市	網走市立呼人中学校	1	柿 ^{カキノ} 野 るいか	平和だった島
奨励賞	札幌市	札幌市立厚別北中学校	2	山 ^{ヤマモト} 本 和 ^{カズヤ} 哉	北方領土の在り方
奨励賞	札幌市	札幌市立明園中学校	2	藤 ^{フジタ} 田 陸 ^{リク} 社	平和と人権を尊重する解決策を。
奨励賞	鹿部町	鹿部町立鹿部中学校	1	荒 ^{アラセキ} 関 ことね	北方領土について思うこと
奨励賞	根室市	根室市立齒舞学園	8	伊 ^{イセ} 勢 美 ^{ミサト} 里	「北方領土について」
奨励賞	天塩町	天塩町立天塩中学校	2	三 ^{ミツハシ} 橋 ^{コナ} 虹 々 南	「ジョバンニの島」を鑑賞して
奨励賞	網走市	網走市立呼人中学校	1	熊 ^{クマザカ} 坂 みのり	想いと歴史
奨励賞	恵庭市	恵庭市立恵北中学校	2	竹 ^{タケウ} 生 香 ^{コト} 翔	返還よりも願いを聞いて

【最優秀賞】

「想像することから一步は始まる」

立命館慶祥中学校
3年 白間 あかね

私の住む町の一角には黄色い旗が風に揺れており、それはどことなくひっそりと、しかしそこに書かれた文字には力強い思いが感じられます。「返せ！北方領土」と書かれたこの旗に一体どれだけの人が目を止め、この文字に込められた思いを知ろうとする人が戦後七十五年の今、一体どれだけいるのでしょうか。

私の家族、親戚にはその地に住んでいた人はおらず、北方領土についての知識は学校の教科書から学んだ事だけで、私にとって遠い歴史の中の出来事ではありませんでした。しかし去年、根室市で開催された「第五十次北方領土返還要求現地視察大会」に参加した時に、納沙布岬から望む青い海に囲まれた歯舞群島を目の当たりにして、「こんなにも近いのに何故自由に行くことが出来ないのか。」と、まだ戦争が終わっていない地域が日本には、この北海道にはあるという事を改めて知ったのです。

新型コロナウイルスによる自粛中に私は一冊の絵本と出会いました。その本は、夕焼けの綺麗な茜色の空が島をすっぽりと包み込んでいる様な美しい表紙で、ところどころ黄ばんでいるページをめくるたびに歴史を感じさせる匂いがします。北方四島の一つである択捉島の北、^{しべとろ}薬取。豊かな自然と温かい島民に囲まれながら楽しく過ごしていた思い出が色鮮やかな可愛らしい絵と共に描かれていて、私は読みながら何度も目を閉じてみます。走り回る子供達の笑顔、それを優しく見守る島民の穏やかな表情、島中に響き渡る大漁を知らせる漁船の汽笛。幸せそうな姿が次から次へと浮かんでいきます。そんな平和な日常が戦争によって奪われてしまうなんて、その時誰が想像していたのでしょうか。

現在、元島民だった方々の平均年齢は八十五歳となっており、実際にお会いしてお話を聞くことは難しくなっています。また、私達の様な若い世代では北方領土に関する問題を知らない、興味がないという声をよく耳にします。このままではこの問題が本当に遠い歴史の中の出来事になってしまうのではないかと私に危機感が募りました。そうなる前に一人でも多くの方が北方四島について関心を持つことが今、必要だと思います。

毎年二月七日は北方領土の日。学生による返還署名活動が行われている事、ポスターや作文などで北方領土についての関心を広めようとしているイベントがあるという事が、メディアではあまり取り上げられる事はありません。コロナ禍の今、直接元島民の方にお話を聞く事は難しいかもしれませんが、私のように一冊の本に出会い豊かな四島を想像する事、そしてそこから関心が高まり北方領土についてもっと知りたいと思う事で、自分の生まれ育った故郷に帰りたいという、ただそれだけの真っすぐな元島民の方々の思いは確実に受け継いでいく事が出来るのだと私は強く思います。

今日も黄色い旗がひっそりと風に揺れています。しっかりとその歴史を学び、その時代を懸命に生きてきた人々の思いをつないでいきたいと、私は小さく頷きその旗に誓うのです。